

「小布施町 総合計画・総合戦略策定に関するアンケート調査結果」正誤表

頁	誤	正
p10	問 2	
	「60代」が20.0%で最も高く、次いで「50代」が17.7%	「60代」が 20.1% で最も高く、次いで「50代」が 17.8%
p13	問 6	
	「65歳以上の家庭」は9.4%、65歳以上が一人の家庭は3.7%	「65歳以上の のみ の家庭」は9.4%、「65歳以上が一人の家庭」は3.7%
p39	「買物、通院、所用などの移動が不便である」、が26.2%である。	「買物、通院、所用などの移動が不便である」、「 地価や家賃が高い 」が26.2%である。
p43	次いで「待機児童がない」が43.6%である。	次いで「待機児童がない」が 43.4% である。
p48	「ある程度はよい」と答えた人では、	「ある程度は すすめられる 」と答えた人では、
p54	4～20位＝ピンク色	文言削除
p72	役所・政策について	
	・小布施らしい文化、伝統文化の掘起し、予算が少ない	・小布施らしい文化、伝統文化の掘起しに 対する 予算が少ない
p76	ごみ出しについて	
	・歳をとって粗大ごみのゴミ出しが、遠く 重 い、自己負担が高つく	・歳をとって粗大ごみのゴミ出しが、遠く 重 く、自己負担が高つく
p 78	その他	
	・くりんこ祭りの時みんなで踊れるような対策をしてほしい	・くりんこ祭りの時 に みんなで踊れるような対策をしてほしい
	・ゴミ屋敷になりそうな家がたくさんあり、 危険	・ゴミ屋敷になりそうな家がたくさんあり 危険

「小布施町 総合計画・総合戦略策定に関する人口動向分析」正誤表

頁	誤	正
P 4	2010年国勢調査の15～24歳は785人で 2015年国勢調査の20～29歳は 336 人で▲ 449 人	2010年国勢調査の15～24歳は785人で 2015年国勢調査の20～29歳は 652 人で▲ 133 人
P 9	国立社会保障人口問題研究所（以降、社人研）の推計によると、 2015 年以降は年 0.8% 前後の減少が継続し、 2045 年には 7,813 人（2015年の約7割）になると推計されています。	・社人研の推計によると、 2020 年以降は年 0.4% 前後の減少が継続し、2045年には 7,119 人（2015年の約7割）になると推計されています。
P10	年少人口、生産年齢人口は減少を続けていますが、老年人口は増加を続けています。2015年における年齢3区分の割合を2010年と比較すると、生産年齢人口は 5.6% の減少ですが、年少人口は 0.4% の減少にとどまっています。老年人口の割合は、 4.8% の増加となっています。	年少人口、生産年齢人口は減少を続けていますが、老年人口は増加を続けています。2015年における年齢3区分の割合を2010年と比較すると、生産年齢人口は 4.4% の減少ですが、年少人口は 0.4% の減少にとどまっています。老年人口の割合は、 4.8% の増加となっています。
P11	社会増減（転入数－転出数）は、1990年から 2000 年までは転入数が上回り、その後、増減を繰り返しましたが、 2010 年以降は転入数が転出数を上回 っています 。最も減少の大きかった 2008 年は転入数 274 人に対し転出数 374 人で、社会増減 -100 人でした。 2017 年、 2018 年においては、転出超過となっており、 2017 年は 60 人、 2018 年 41 人です。	社会増減（転入数－転出数）は、1990年から 2000 年までは転入数が上回り、その後、増減を繰り返しましたが、 2010 年以降は転入数が転出数を上回る 傾向にあります 。最も減少の大きかった 2008 年は転入数 274 人に対し転出数 374 人で、社会増減 -100 人でした。 2017 年、 2018 年においては、転出超過となっており、 2017 年は 27 人、 2018 年 29 人です。
P12	町外周部と町中心部それぞれの人口推移をみると、町外周部は2004年から 2018 年にかけて、平均 0.8% ずつ減少しています。町中心部は、数値は微動するものの、2004年から 2014 年の年平均減少率は 0.05% であり、人口が微減しています。	町外周部と町中心部それぞれの人口推移をみると、町外周部は2004年から 2018 年にかけて、平均 0.8% ずつ減少しています。町中心部は、数値は微動するものの、2004年から 2018 年の年平均減少率は 0.05% であり、人口が微減しています。
P16	・小布施町における2018年の転入数は323人、転出数は304人であり、純移動数（転入数－転出数）は 39 人と、転入超過となっています。	・小布施町における2018年の転入数は323人、転出数は304人であり、純移動数（転入数－転出数）は 19 人と、転入超過となっています。
P18	転出は、男女とも20～24歳の県外（東京圏）への転出が多いです。男性は15～34歳まで転出が多いですが、なかでも15～24歳の転出が突出して多いです。また、25歳～39歳までの男性の 圏内 （通勤通学率10%圏内）への転出が多いです。女性は25～34歳までの県内への転出が多いです。	・転出は、男女とも20～24歳の県外（東京圏）への転出が多いです。男性は15～ 39 歳まで転出が多いですが、なかでも15～24歳の転出が突出して多いです。また、25歳～39歳までの男性の 県内 （通勤通学率10%圏内）への転出が多いです。女性は25～34歳までの県内（通勤通学率10%圏内）への転出が多いです。
P19	また、男女ともに15～24歳はマイナス（転出超過）となり、 25 歳以降で町へ転入する傾向がみられますが、男性の方がその傾向は弱いです。	また、男女ともに15～24歳はマイナス（転出超過）となり、 30 歳以降で町へ転入する傾向がみられますが、男性の方がその傾向は弱いです。
P21	一方、「20～24歳が25～29歳になるときに 大きく 人口が増加しています。これは、結婚、もしくは大学卒業後のUターン就職に伴う転入の影響が考えられます。	一方、「20～24歳が25～29歳になるときに 大きく 人口が増加しています。これは、結婚、もしくは大学卒業後のUターン就職に伴う転入の影響が考えられます。

